平成 20 年 11 月 13 日

各　　位

会社名　　相模ハム株式会社
代表者名　代表取締役社長　　藤巻　立滋
（JASDAQ・コード　2289）
問合せ先　取締役経営改革本部長　伊藤　保
ＴＥＬ　　０４６６－４８－８１１１

特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、下記の通り特別利益及び特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の動向を踏まえ、平成 20 年 5 月 20 日に公表しました業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

１．特別利益の発生及び内容

(1) 賞与引当金戻入益の計上について（連結）

当社は、賞与支払いに備えるため、賞与引当金を計上しておりますが、賞与の支払いが大幅に減少したため、賞与引当金戻入益 22 百万円を計上いたしました。

２．特別損失の発生及び内容

(1) 固定資産減損損失の計上について（連結）

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、個別並びに連結子会社が保有する固定資産（建物及び構築物）及びリース資産につき減損会計を適用し、特別損失として減損損失 57 百万円を計上いたしました。

(2) 営業所閉鎖による特別損失の計上について（個別）

城南営業所の閉鎖に伴う費用として 9 百万円を計上しました。

(3) 貸倒引当金繰入額の計上について（個別）

連結子会社に対する貸付金に係る貸倒引当金繰入額 39 百万円を特別損失として計上しますが、連結子会社に係る特別損失については、連結決算上消去されます。

３．平成 21 年 3 月期　第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）の業績予想の修正（連結）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 （A）	8,230	17	△48	△48
今 回 修 正 （B）	7,783	△109	△144	△161
増 減 額（B－A）	△447	△126	△96	△113
増　　減　　率	△5.4	―	―	―
（ご参考）前期第 2 四半期実績（平成 20 年 3 月期第 2 四半期）	9,397	△137	△177	△290

（個別）　　（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 （A）	4,550	△20	△5	△5
今 回 修 正 （B）	4,051	△143	△144	△209
増 減 額（B－A）	△499	△123	△139	△204
増　　減　　率	△11.0	―	―	―
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成20年3月期第2四半期）	7,863	△212	△196	△249

４．平成21年3月期　通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の業績予想の修正

（連結）　　（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 （A）	16,800	140	10	10
今 回 修 正 （B）	16,100	30	△40	△70
増 減 額（B－A）	△700	△110	△50	△80
増　　減　　率	△4.2	△78.6	―	―
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	18,375	△123	△213	△300

（個別）　　（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 （A）	9,350	70	90	40
今 回 修 正 （B）	8,315	△130	△145	△250
増 減 額（B－A）	△1,035	△200	△235	△290
増　　減　　率	△11.1	―	―	―
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	12,897	△243	△208	△249

５．修正の理由

(1)連結業績予想について

第2四半期累計期間

第 2 四半期累計期間の売上高につきましては、加工品・総菜は当初予想 3,678 百万円・645 百万円に対して 3,705 百万円・694 百万円となる見込みで、76 百万円上回る見込みであります。加工肉は当初予想 3,909 百万円に対して 523 百万円減少の 3,385 百万円となる見込みであります。この理由につきましては、加工品・総菜は受託生産に積極的に取り組むなどの施策を実施したことによるものですが、加工肉は食肉市場環境が厳しい中、不採算取引の見直しを推し進めましたが想定以上の落ち込みと輸入豚肉の供給不足による売上減少が重なったことによるものであります。この結果、売上高は前回発表予想を 447 百万円下回る 7,783 百万円となる見込みであります。

営業利益・経常利益につきましては、販売費及び一般管理費の圧縮に努めたものの、売上高減少に伴う売上総利益の減少により、営業損失 109 百万円、経常損失 144 百万円となる見込みであります。当期純利益につきましては、前記の理由に加え、１．特別利益の発生及び内容、２．特別損失の発生及び内容に記載のとおりの理由により 161 百万円の損失となる見込みであります。

通期

通期の売上高につきましては、中期経営計画の基本方針の一つとして掲げています販売体制の転換におきまして、本年度より体制を組みました相模ハム・営業開発部を中心に新規チャネルの拡大・強化を図り実績につなげるなどの施策の実施で加工品の売り伸ばしを図りますが、加工肉は第 2 四半期累計期間に実施した不採算取引の見直しによる売上高の減少は引き続き見込まれ、前回発表予想を 700 百万円下回る 16,100 百万円となる見込みであります。

利益につきましては、中期経営計画の基本方針の一つとして掲げています生産体制の転換におきまして、生産品目の大幅な整理を実施し、生産の効率化による原価低減を目指などの施策を実施し、さらに販売費及び一般管理費の圧縮に努めますが、売上高減少に伴う売上総利益の減少により、営業利益 30 百万円、経常損失 40 百万円、当期純損失 70 百万円となる見込みであります。

(2)個別業績予想について

連結業績予想の修正に至った理由と同一要因、及び２．特別損失の発生及び内容に記載のとおりの理由によるものであります。

（注）　上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能の情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上